

新春雑感 七草粥

芹 薺 御形 繁縷 仏の座 菘 蘿蔔 これぞ七草

七草粥を食べながら、ロータリー運動の益々の発展と、コロナ禍の一日も早い終息を願いました。

コロナ禍によって、ロータリー運動が事実上休止してから、1年が過ぎようとしています。少しでも皆様のお役に立とうとして、ZOOMによるセミナーを開催しており、参加者も日を追うごとに増えていることを感謝しております。

感染者は日ごとに激増し、その傾向は、ワクチンの接種が終わるまで続くことを覚悟せざるを得ません。たとえ一旦終息したとしても、インフルエンザと同様に、コロナと共存していく時代が続くことでしょう。

IT音痴世界一が日本の誇りです。これを機会に、この汚名を返上しようではありませんか。パソコンを駆使すれば、コロナ感染の心配もなく、時と場所を選ばずに、さらに最良のコスト・パフォーマンスで意思疎通が図れるのです。クラブの若い会員の出番を作ってあげてください。フレッシュな七草粥の活躍を期待しております。

ロータリーには変えなければならないものと、変えてはならないものがあります。

変えなければならないものは組織の管理です。これを怠ると必ずと言っていいほど制度疲労を起こします。ロータリーは巨大な組織に発展しました。「拡大」を目的とする国際ロータリーにとっては大成功です。次々と新しい目的を設定して、肥大を繰り返していきます。世界中のボランティア組織を統合する「株式会社国際ロータリー」を目指している模様です。

2030年を目標に大きな組織改革が予定されている模様です。ガバナー制度が廃止されるとか、言語・文化・宗教を勘案したリージョナル・カウンシルを設けて、そこに一定の自治権を認めるとか、いろいろな噂が入ってきますが、詳細は不明です。国際ロータリーの組織改革ですから、理にかなった改革ならば、規定審議会の決定に従わざるを得ないでしょう。

その一方で、変えてはならないものは、ロータリーの奉仕理念です。

弱肉強食の場であった20世紀初頭の経済界に、継続的に利益をもたらす顧客を確保することによって事業を発展させ、事業主、従業員、顧客その他の事業に関係する人全体に利益をもたらす、新しい経営学に基づく奉仕理念を提唱したのが、シカゴクラブ会員、アーサー・フレデリック・シェルドンです。

この奉仕理念をロータリアンはもちろん、多くの事業主が実践したために、世界の経済は大きな発展を遂げました。このシェルドンの理念が後日、ジョン・ケインズが提唱した修正資本主義の原型となり、現在に至っています。

ロータリアンには自らの事業を通じて、社会に貢献する義務があります。シェルドンが提唱した、ロータリーの原点ともいえる職業奉仕理念を実践して、社会に貢献すると共に、自らの事業を発展させましょう。

源流の会は次の三つの目的のために創立しました。

- 1、 シェルドンの経営学に基づく奉仕理念を称え、職業人に広く浸透させること。
- 2、 ロータリーの歴史的に重要な文献を収集し、インターネットを通じて公開すること。
- 3、 インターネットを通じて、ロータリーの情報を伝達すること。

以上の目的を達成するために、努力しておりますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。